

研究成果報告書

1. 研究概要

特定分野に特異な才能のある児童生徒の対応を専門とする学校外教育施設にて以下の取組を行い、学校外機関の在り方や、学習状況の把握や学習評価の在り方を探る。その際、2E 児童生徒の対応にも留意して実践研究を進める。

- ・ ICT を積極的に活用した個に応じた学習活動の日常化やサポートの在り方の可視化
- ・ プロジェクトベースラーニングや STEAM 教育を参考にした探究横断学習を教育課程の中心とした協働学習プログラムの構築
- ・ 年齢・発達・得意分野の多様な集団において有効な時間割・教育課程の検討
- ・ 家庭と情報を共有するための方法の検討
- ・ 個別指導計画モデルの作成と分析
- ・ 2E 傾向のある児童生徒への多様性の理解、心身の育成を目的とした SEL 教材の研究開発

2. 研究内容

(1) 研究課題

(研究領域 1) 学校内での取組に関すること

- ☐ a 単元内自由進度学習や異年齢集団による学習、理解の状況に応じた課題の設定など、特異な才能のある児童生徒をはじめ子供の関心等に合った授業や学習活動の在り方
- ☐ b 特異な才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方
- ☐ c 児童生徒が普段過ごす教室や学校内の他の教室等、指導・支援に取り組むための多様な学びの場の設定や連携の在り方や、過ごしやすい居場所としての環境整備・人的サポート等の在り方
- ☐ d 特性等を把握するためのサポートを受けながら行う特異な才能のある児童生徒への指導・支援の在り方
- ☐ e 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応の在り方

(研究領域 2) 学校と学校外との連携に関すること

- ☒ f 学習面・生活面にわたる学校と学校外との機関との連携による指導・支援の方法
- ☒ g 特異な才能のある児童生徒に支援を提供するための学校外の機関の在り方や、その機関と連携して学習を行う際の学習状況の把握や学習評価の在り方
- ☒ h 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応

(研究領域 3) 児童生徒を取り巻く環境の整備に関すること

- ☐ i 教職員への研修の在り方や、保護者、地域社会の理解の醸成の在り方
- ☐ j 各主体が保有する情報集約や、主体間の情報連携・共有の在り方
- ☐ k 児童生徒の機微な情報の共有の在り方、進学時の情報の引き継ぎなど学校段階間の

連携の在り方

（２）研究における取組

＜内容＞

令和５年４月に開設した SEISA アカデミーは５名でスタート、１年間で１１名増員し、令和６年４月は１６名で２年目を迎えた。IQ 値やスキル、体験入学の行動観察から見て、特定分野に特異な才能のある児童生徒であると考えられ、かつ 2E 傾向があると確認している。本取組は学校外教育施設として 2E 傾向のある児童生徒を含む、特定分野に特異な才能のある児童生徒を主対象とした SEISA アカデミーにおいて、どのような教育がこれら児童生徒に有効であるかを実証研究したものである。

① 学校外機関の在り方に関する実証研究

A：年齢に応じた学習成果目標をどのように実現するか

数種類の AI ドリルを活用し、児童生徒のタイプに応じた活用方法について研究していく。

研究結果

〈AI ドリル活用について〉

昨年度に引き続き導入した AI ドリルは「すらら」「Qubena」の２つで、中学生に対してはスタディサプリも活用し基礎学習の時間で使用してきた。前期は好きな科目からでいいので１時間はドリルに取り組む、という習慣付けをしてきた。とにかく椅子に座って、ソファに座って、自分の集中できる場所でいいので AI ドリルと向き合う時間をつくった。習慣付けができたところで、後期は取り組んでいる中身、内容に切り込んだ。ICT 活用で好きな所から学習を始めることは子どもたちにとって束縛されない学習ができ、自分のペースで学んでいくことの心地よさを感じることができた。基礎学習への抵抗は比較적なくなったと感じた。次のステップとして、今自分が取り組んでいる科目にプラス２科目、苦手な科目や取り組んだことのない科目に目を向けてみることを後期のテーマにし実践してきた。何に取り組んでいるのか中身まで管理してしまうと窮屈に感じてしまうため、あくまでも科目数を増やすことを目的に取り組ませた。今までは好きな科目を１～２科目やっていたのに対し、後期は３～４科目取り組む生徒が増え、自分なりに各科目のバランスを考えながら取り組むことができるようになった。小学生、中学生が中心の学び舎である以上、学習指導要領に基づいた義務教育の内容を網羅することの重要性を感じている。これは好きなことに対する学習の時間を奪うことではなく、普段目を向けられないことで狭まってしまう「視野の拡大」と嫌なことにも取り組んでみるという負荷をかけることで養われる「精神力の強化」につなげていくことが目的である。

このように ICT 活用で個に対応した早修の学習を始め、苦手分野の学習にもある程度抵抗なく取り組む習慣付けができるようになり、個別最適化の学習は実現できた。

来年度の取り組みとしては ICT を用いた学習の効果をみるために定期的な確認テストの導入を検討している。現状、どのくらいの力があるのか、一般的な学年でいうと何年生のどのあたりにいるのかを見える化し、学習意欲の向上につなげていきたい。また、ICT に頼り切る学習ではなく、個々に応じて紙ベース、テキスト活用の学習も個別に取り入れ、さらなる個別最適化を目指していく。

〈年齢に応じた学習成果目標の達成方法 1 (プレゼン発表会の実施)〉

SEISA アカデミーではプロジェクトベースドラーニング (PBL) や STEAM 教育を参考にした探究型横断学習を教育課程の中心として学習活動をおこなっている。しかしながら前記の学習活動の実施にあたり、興味関心が多種多様な、特定分野に特異な才能のある児童生徒にとって、探究型横断学習の成果を画一的に定めることは当人の学びへの好奇心や意欲に蓋をしてしまう恐れがある。そのため、個人の学習成果目標の達成確認方法として、在籍児童生徒全員参加の「プレゼン発表会」を年間 2 回 (9 月及び 2 月) 実施し、学習成果をアウトプットする機会を設けた。

【実施目的】

- ・ 学びへの好奇心を持続させ、得意な分野における探究心を育み年齢に応じた学習成果目標を達成する
- ・ 自信の考えや意見をアウトプットをすることによる成功体験の積み上げ
- ・ 探求型横断学習の学習評価方法と学習成果目標の紐づけのためのプログラム研究

【実施方法】

- ・ 個人が興味関心を持っていることに関して探究する「マイプロジェクト」の時間に題材決定及び探究学習と発表資料づくりをおこなう
- ・ スタッフはファシリテーターとして探究のためのサポートとアドバイスに徹する
- ・ 発表形態は個人の自由とし、当日は保護者並びに学校関係者も自由見学可とする

【実施にあたっての留意事項】

- ・ アウトプットすることへの苦手さに対する支援内容

SEISA アカデミーの児童生徒は様々な理由から自身の考えを他者へアウトプットすることに不安や苦手意識を抱えている児童生徒が多いため、自信を持って発表できるよう、アウトプットすることを専門的に学ぶ「アウトプットゼミ」の開講、発表方法の多様化、をおこなった。当日の発表の仕方は様々で、前に立ってのプレゼン、音声合成ソフトを使用したコンピュータ音声でのプレゼン、事前録画でのプレゼン、ビデオ会議システムを使用したりリモートでのプレゼン、等、本人のやりやすさを優先することで、ほとんどの児童生徒が探究内容のプレゼンを実施することができた。

- ・ 探究学習に対する支援内容

興味関心をもったことに対して探究しようとする姿勢は勢いがあり、その勢いが消える前に必要としている物を準備したり、必要な情報へアクセスする方法等を提示することを意識してファシリテートをおこなった。保護者の協力も得られ、実際に企業訪問をした内容をプレゼンする児童生徒もあり、即応と保護者連携の必要性を改めて感じた。

今年度実施したプレゼン発表会は児童生徒、保護者ともに一定の達成感と成果を得られた結果になったと考える。内容に関しても専門的な知識について触れる内容となっているため、今後はさらに探究することで、より深い学びへ繋げていきたい。

〈年齢に応じた学習成果目標の達成方法 2 (学力検査の実施)〉

SEISA アカデミーは探求型横断学習を教育課程の中心におきながら、学習指導要領の各教科科目の目標を達成すべく学習内容を構成している。個々の児童生徒の興味関心が強い内容をきっかけに学習を進めていく形態のため児童生徒自身、生き生きと活動をしている様子が多く見られる。一方で、苦手意識をもっている分野や興味が沸かない分野の学習に関して学

習姿勢に差があり、また学習成果が客観的にわかりづらいという課題点を踏まえ、今年度は年2回(9月及び1月)に学力検査を実施した。

【実施目的】

- ・児童生徒が学習到達度の確認と振り返りをおこなうことで、持続的な学習姿勢の定着を図る
- ・定期的に学力検査を実施し、児童生徒の学習意欲を促す
- ・児童生徒へ目指すべき学習目標を提示し、学びの自律習慣を育む

【実施内容】

- ・国語、数学(算数)、英語の3教科の観点を中心に据えた問題を作成し、取り組ませる
- ・評価は点数及び各年齢の学習目標到達度の指標としてグレードG1(小1)～G12(高3)で評価する

【実施にあたっての留意事項】

試験問題に関しては個々の取り組みやすさ(LDやディスレクシア)に対応できるように紙面での試験とGoogleフォームでの試験を選択できるように作成をおこない、登校ができない児童生徒も自宅から受験ができるようにした。また、一般的な定期試験とは区別し、ネット環境が使える状態で学力検査を実施したため、知識を問う問題よりも、思考力や論理力、問題解決能力を意識することで、これからの社会に必要とする生きる力と直結した学力が養えるよう配慮をした。(※学力検査の問題：資料①)

【実施結果と総評】

いわゆる試験形式での取り組みとなるため、児童生徒から反発もあると予想していたが、大きな混乱もなく実施できた。1回目(9月)よりも2回目(2月)の方が慣れてきたこともあり、児童生徒が自律的に試験へ取り組む様子が見られ、継続することの手ごたえと効果を実感できたと言える。結果に関してはほとんどの児童生徒が実年齢のグレードよりも高い到達度を示したが、興味関心の有無により、分野毎のばらつきも伺えた。

今回学力検査を実施し、目指すべき目標と指標(グレード)を意識させることで、児童生徒自身が目的意識をもって学習へ取り組むきっかけとなることを確認できた。今後、学力検査内容の精査や、試験内容と学習指導要領との客観的な紐づけをすることで、より年齢に応じた学習成果目標の達成方法として練り上げていく。

B:協働的な学びに関する実証研究

チーム単位でのプロジェクトベースドラーニング(PBL)やSTEAM教育を参考にした探究型横断学習を教育課程の中心とし、学びへの好奇心、意欲や課題発見、解決を重視した協働学習プログラムがどのように構成できるか研究していく。

研究結果

〈グループワーク・グループミーティングの練習：校外学習〉

SEISAアカデミーでは校外学習の行先をスタッフではなく子どもたちに決めてもらう流れとなっている。①自分たちで学びたい場所を決めて予定を立てて行く。②初回の話し合いの進行はスタッフで行う、③少数派の意見がないがしろにされるような多数決で決めるのは禁止、というシンプルな注意だけ行い、9月の行先を決める話し合いをスタートさせた。話し合い1回目は行きたいところを1人ひとり出していく作業。場所の制限や費用のことなどは抜きにして、まずは全員が意見を出す練習。こういった内容は特定の積極的な児童生徒の意見に偏りがちなので、そうならないように1人ひとつは行先を出す空気をつくるようにした。

たくさんの意見が出たところで1回目は終了(※意見出しの記録：資料②)。当然1回の話し合いでは決まらないだろうと予想していたので、2回目の予定を立てた。2回目はたくさんの行先から絞り込んでいく作業。他県や費用的に現実的ではないところを省いていき、日帰りでSEISAアカデミーの生徒数で計3回、粘り強く話し合いをし、行先を2カ所まで絞った。最終的にはひとつにまとまらなかったのが校外学習の日程を2日間にし、行きたい方に行くというプランで落ち着いた。静岡県タミヤ本社の中にある歴史館と江の島(さらに新江ノ島水族館コースと江の島散策コースに分かれる)に分かれ、2日間校外学習を実行。結果、見たいもの、学びたいことを十分に楽しみ、終始笑顔が絶えることなく、とても満足いく校外学習となった。次の11月の校外学習も話し合いからスタート。前回の話し合いからだいぶ要領を得たのか、今回は2回目の話し合いで行先が決まった。とはいえ、11月も2カ所になったのだが、趣味的思考が強かった前回の行先に比べると今回は科学技術の最先端を学ぶTEPIA先端技術館と歴史を学ぶ猿島になり、校外学習＝学びという概念が備わったことに子どもたちの成長を感じた。猿島は当日フェリーが欠航となり、急遽横須賀軍港ツアーに変更となったが艦隊「三笠」の見学にゆっくり時間をとることができ、日露戦争についての学びにつながった。横須賀軍港ツアーでは運よく空母「ジョージ・ワシントン」や潜水艦4隻を見ることができ非常に貴重な体験となった。今後も大人たちが決めたプランに乗るだけの校外学習ではなく子どもたちが中心となって構築する校外学習を目指していくのと、日帰りだけではなく宿泊を伴う社会科見学の実施を目標に動いていきたい。

〈校外学習実績〉

(TEPIA 先端技術館・明治神宮)

生徒それぞれの興味の対象にできるだけ合わせていきたいという面から、校外学習の行先については事前に話し合いを持っている。

その1グループが日本で地球環境問題やイノベーションに配慮した最先端技術を情報発信しているTEPIA先端技術館へ学習に向かった。3Dプリンタやレーザー加工機の実物見学やプログラミング実演など生徒たちに限らず我々スタッフに対しても満足度が非常に高い内容のようだった。もう一つの行程として明治神宮の参拝をおこなった。こちらは、普段PCやスマホ、室内中心の活動と打って変わり厳かな雰囲気の中、開放的な空気に触れ充実した時間となった。

(猿島ツアー)

もう1グループが、東京湾に浮かぶ無人島(猿島)の国史跡散策を計画したのだが、強風によりフェリーが欠航し、予定の変更を余儀なくされた。三笠公園にて戦艦三笠内の見学と軍港ツアーに参加することができた。運よくアメリカ海軍の原子力空母ジョージ・ワシントンが入港しており、見ることができた。雄大なものや本物に触れ、歴史や国際関係について身近に感じるという体験こそが校外学習の一つの意義であると感じた。時間的にも移動距離的にもちょうどよく、十分に学習し、楽しむことができた。天候に左右される内容で、港であるため強風にさらされる1日となったが、それも体験の一環であったと思う。

(東京科学大学地球生命研究所 ELSI)

地球と生命の起源に迫る、をテーマに星槎高校通信制にて高校生と事前学習をおこなった。その講義から積極的に生徒たちは臨み、東京科学大学地球生命研究所に伺った際にも高校生たちと研修等で行動をとることもできた。まず、その高校生と触れ合うことが大きな

学びになり、アカデミー生の違った側面を見ることができた。

学食で昼食を取らせていただき、中にはそこにいた大学生に話しかけ大学生活について質問を投げかけている生徒もあり積極的な場面もみられた。研究所（ELSI）の見学では実際の研究室を外からではあるが見ることができ、建物全体の雰囲気からも本物に触れた感覚になっている生徒は多かったのではないかと感じた。最終的には時間がおしてしまうくらい質問も出て、実りある校外学習になった。

今後の校外学習では、事前学習をおこなったうえで見学や体験に臨ませ、内容によっては事後の学習にも取り組ませていくことが効果的ではないか、と考えている。実施回数は限られるが校外学習による体験の機会が必要である。

協働的学びの実証結果 2

SEISA アカデミーの新たなルールづくり

星槎の 3 つの約束、「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」は SEISA アカデミーの 3 つの約束でもある。学校生活を送るにあたってあまり細かい決まりを作りたくなかったのと必要なときに必要な内容で決まりごとは追加していくのがいいと考えていたため 3 つの約束が中心でいいと思い特に規則を決めることなく SEISA アカデミーをスタートさせた。2 年目を迎えたころ、星槎 3 つの約束は抽象的でこれを守るために具体的に自分たちがどう行動していいかわからない、1 人ひとりのとらえ方で 3 つの約束を実践しては、各々の匙加減になってしまうのもっと具体化したルールをつくりたい、と生徒から提案があった。確かにそのとおりである。この 3 つの約束の抽象的なあいまいさが良かったりもするのだが、SEISA アカデミーの生徒にとってはグレーゾーンは行動を混乱させるものであり、白黒はっきりした指針がある方が行動しやすい。ということで、新たな話し合いが持たれ、SEISA アカデミーの児童生徒が 3 つの約束を体现するための具体的なルールを作ることになった。まずは普段の学校生活の中で困っていることから、みんなに気を付けてほしい事など意見出しをしてもらった。（※意見出しの記録：資料③）

意見出しの途中で 1 回目終了。2 回目、3 回目はみんなの意見をまとめて、ルールとして必要、必要でないを精査する作業。（※精査する作業：資料④）

3 回目の話し合いで絞り込むことができた。最後は残ったことをもとにスタッフで 5 つにまとめみんなに共有した。このルールを規則とするよりはみんなが守れるようにチャレンジしていくこととし、アカデミー 5 つのチャレンジとして教室の見えるところに掲示している。追加で、パソコンの使用についても人に迷惑をかけないように使用してほしいという意見が多かったことから、これは別でルールを作り同じく掲示している。計 3 回にわたる話し合いをもとにみんなが納得するものが完成した。

（※アカデミー 5 つのチャレンジ完成：資料⑤）

協働的学びの実証結果 3

アカデミーカフェ・畑プロジェクト

〈アカデミーカフェの取り組み〉

2023 年 9 月 22 日にアカデミーカフェをスタート。これはもともと、人数が少なく授業がで

きなかった時期にたまたまスタッフが持っていたコーヒー豆を挽く手動の豆挽きにはまった児童がいて、1日でかなりの量を挽いていたので学校職員にコーヒーを提供しよう、という動きから始まった。最初は無料で提供したところ1日で30杯程度の需要があったので1杯150円で挽きたてのコーヒーが飲めるアカデミーカフェをオープンした。授業に参加しない児童生徒が「いらっしゃいませ」の接客からコーヒーの提供、お金をもらい、スタンプカードを押し、サービスのお菓子を勧める一連の流れを覚え、子どもたちだけで運営するスタイルができ上がった。せっかくなのでSEISAアカデミーにあったらいいものを買おうということで冷蔵庫を買う目標を立て、半年で4万円の売り上げを達成。念願の冷蔵庫を買うことができた。2024年度も継続してやっているが、今年度はアカデミー生的人数も増え、みんなが授業に参加する環境が整ったので昨年度に比べるとカフェをオープンする機会は減ったが、冷蔵庫がきたので夏はかき氷のイベントをやろう、ということでかき氷販売も実現させた。2年連続でハロウィンのコスプレイベントも実施し、カフェに足を運んでくれた職員にワンポイントコスプレをしてもらい、記念写真撮影のサービスも提供した。カフェという憩いの場ができたことにより、中学校の先生方もSEISAアカデミーに足を運んでくれるようになり、子どもたちが様々な大人と関わる機会が増えた。常連の先生には自ら声をかけて「今日もカフェ、オープンしてますよ」と職員室に呼び込みにも行くようになった。SEISAアカデミーに体験入学にくる子たちもカフェの体験が楽しかった、とアカデミーの人気事業になりつつある。児童生徒も授業があるため不定期開催になってしまうのが惜しいところだが、今後もししたらもっとお客さんが来てくれるか、売り上げが上がるか、安定した経営ができるか、などなど「子どもたちが運営するカフェ」として継続し、小さな社会経験につながるようにしていきたい。

〈畑の取り組み〉

SEISAアカデミーでは授業の一環として週2回畑プロジェクトの時間を取り、放置され“草やぶ”になった畑を開墾し健康的な野菜をつくる活動をしている。このプロジェクトはその土地と周りの命のつながりを学ぶ環境教育の場となっており、種をまき、水をやり、太陽の光を浴びて、生命が育つ過程を通して、子どもたちに生命の尊さとプロセスの重要性を認識させる。野菜を育てるために、土や水に触れ、風を感じながら自然との関わりを持つことで五感が刺激されるだけでなく、スーパーに置いてある野菜も、土の中で栄養をもらって成長し育ったものなのだと理解を深め、食に対する興味・関心を持たせることができている。また作物を育てることで子どもたちは「ゼロから何かを自分たちで生み出す」ことを経験することができ、作物を育てる喜びも感じさせることができた。育てながら、なぜ肥料が必要なのか、虫が植物にどのような影響を与えるのかなど、自然のサイクルやエコシステムについても学ぶ機会となっており、子どもたちが実際に手間をかけて育てた野菜は、調理実習の食材として利用している。

また、畑プロジェクトとして、みんなで「育てる」ことで責任感を持ち、協力し合うことを学ぶ時間ともなっている。都市部に住んでいると、自然に触れる機会が少ないが、畑プロジェクトの中で、土に触れ、植物や昆虫の生態を直接観察することができる。こうした体験は、子どもたちにとって貴重な学びであり、感性を育む大切な機会となっていると考えている。また、自然のサイクルを理解し、植物の生命について学ぶことは、心の成長にもつながっている。

C：時間割構成上の取り組みの実証研究

個々の児童生徒の状況に最適化して有効な時間割はどのようなものであるか検討していく。年齢・発達・得意分野の多様な集団において有効な時間割や教育課程を検討していく。

研究結果

〈時間割の考え方 1〉

SEISA アカデミーは、学校法人星槎の運営する学校外教育施設である。形式上初等部・中等部・高等部と区分しているが、児童生徒個々の状況に応じて早修や拡充をして授業に取り組むことができるようにしている。在籍するのは、小学 4 年生から、高校生年齢までの児童生徒で、小中高一貫教育無学年式となっている。初等部の児童はフリースクールの枠組みで受け入れている。中等部の生徒は本法人の設置する星槎中学校の在籍であるが形態としてはフリースクールである。高等部の生徒は、本法人の設置する星槎高等学校通信制課程に併せて在籍している。

SEISA アカデミーにおける学習内容は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法に定められた目的を達成するために、学習指導要領の各教科科目の目標を達成すべく構成されている。午前はベーシック(基礎学習)を中心とし、ICT を積極的に活用した個に応じた学習活動の日常化やサポートを実施。午後はプロジェクトベースドラッシングや STEAM 教育を参考にした探究横断学習を教育課程の中心とした協働学習プログラムの構築を図った。

年齢・発達・得意分野の多様な集団において有効な時間割・教育課程の検討を常に考えながら時間割の構築を実践してきた。(※2023 年スタート時の時間割：資料⑥)

〈時間割の考え方 2〉

初年度は 6 名の児童生徒からスタートしたこともあり、欠席が多いとなかなか授業にならないという日もあった。基礎学力をつけることより、自分の学びたい、やりたいことを SEISA アカデミーで実現したいという児童生徒の気持ちが強かったのでまず何をやりたいか、もう一度子どもたちの声を精査した上で、時間割の再構築をはかった。6 名中 4 名が不登校経験者であり登校も安定していなかったことから年度途中でオンラインも導入した。探求の時間も児童生徒任せにするのではなくスタッフが子どもたちのやる気を引き出し、形にするところまでの伴奏が必要なことも分かった。この結果、抽象的な時間割よりももっと具体性を持たせた方が子どもたちにとって動きやすいことが分かった。初年度の経験を活かし、2 年目はもう少しバラエティーに富んだ内容で、その時間に何を学ぶのか分かりやすい具体性のある時間割にアップデートした。水曜日を午前授業にすることで時間割は以下の通りである。

(※2024 年度時間割前期後期：資料⑦)

2024 年度の前期と後期でアップデートしたところは、前期の「哲学」「心理学」を「日本文学」「宗教学」としたところ、またオンラインの授業で「DTM(Desk Top Music)」と「イラスト」を追加した。特に DTM はオンラインと対面の両方に強化したところ、この授業を選択している生徒の学びが深まると同時に、結束力も高まり、起立性調節障害で安定した登校が難しかった生徒が午前中から来れるようになり、学校での滞在時間が増加した。これはここ 1 年の自身の成長として生徒自身も実感している。また、DTM から派生し、イラストもやってみようかなとやる気を見せ、木曜日のイラストゼミも後期の途中で選択するようになった。少しずつではあるが探求の幅の広がりを見せている。

〈時間割検証結果〉

午前中は基礎学習を中心としながら、午後は専門性を持たせた大学のゼミ授業のような内容が児童生徒が心地よく学習に取り組める形として確立した。また、所々自分の意志で選択できる箇所を作ったのも良かった。国数英の基礎学習の時間を苦手としている児童生徒も午後の授業で生き生きと自分らしい学習が確立できれば自然と基礎学習にも向かう姿勢がついてきた。水曜日の活用の仕方でも 1day teacher に来てもらったり変化をつけることで好奇心の高いアカデミー生のマンネリ化を防ぐこともできた。来年度はもう少し基礎学習の時間を増やしていきたい。

D：家庭と情報を共有するための取り組みの実証研究

個別の児童生徒の状況を家庭と共有し、個別の配慮を進めていくことが何より重要だと考えている。この方法としても個別の支援計画への取組も検討していく。また、SEISA アカデミーとして個々への配慮だけに終始することなく共同体としての活動も重要だと考えるために、どのような学校通信が有効か検討していく。

研究結果

〈ご家庭との情報共有①〉

ご家庭との情報共有は紙ではなく基本 Google クラスルームを通して実施。持ち物管理が苦手な 2E の児童生徒にとって大事なお手紙といって学校から渡されても、他の情報が入ってしまうと忘れることが多々あるため、その日のうちに保護者にわたることが少ない。タイムリーに大事なことを共有するにはオンラインが効果的である。日々の活動や特別授業、宿泊行事などの様子が伝わるよう、クラスルームで写真、動画を共有している。クラスルームの活用は一方的なこちらからのお知らせのみの対応になるため、ご家庭で気になること、すぐスタッフと連絡をとる必要があるときは今まではショートメールや直接のお電話でやりとりをしてきたが、児童生徒数が増えてからはビジネス用の公式 LINE を開設し、必要があるご家庭は登録してもらい LINE でやりとりできるようにした。保護者のみではなく、子どもたちからも何かあった時にスタッフと連絡がとれるように子どもたちとスタッフで連絡が取れる LINE アカウントも作成した。保護者からは面談や保護者会のタイミング以外にも、タイムリーに相談したいことが LINE で来るときもあり、随時対応しているが、このスピーディーな対応が保護者からの信頼につながっていると実感する。子どもたちの心の移ろいやすさや行動の衝動性から思い立ったらその時にやらないと気が済まない、そのときにスタッフに聞いてほしい、など学校ではないタイミングで連絡をとることもあった。子どもたちからの声にできるだけ早急に反応できるように保護者と連携してご家庭での様子をできるだけ把握しておくことで、普段の学校生活でも対応を先回りできるように工夫してきた。現在はこの方法で対応しているが、児童生徒数が増えるとまたこのやり方も変えていく必要がある。その時その時でどの方法が一番良いか、状況に応じて今後も判断していきたい。

子どもたちが作成した作品などをドライブに保存し、スタッフと児童生徒間で共有できる仕組みも作っている。活用状況としてはまだこれからだが中 3 女子生徒が作った詩や物語などをこのドライブに保存し、スタッフと共有することで学期末や学年末にポートフォリオとしてまとめ、形に残している。

〈ご家庭との情報共有②〉

普段の連絡事項で Google クラスルームと公式 LINE を活用する以外に、毎月、スタッフの思いの

丈と月間行事、お知らせ、頭の体操クイズなどを盛り込んだ「煌星(きらぼし)」という通信を発行している。発行は毎月第3月曜日。この発行も Google クラウドで共有している。内容の詳細は以下の通りである。

- ① 主任の言葉「MORISHE SAID」
- ② 月間スケジュール
- ③ 今後のお知らせ
- ④ スタッフより「新年の誓い」「おすすめMUSIC/映画/本など」
- ⑤ スタッフより「あいちゃん便り」
- ⑥ スタッフより「YOSSY'S ROOM」
- ⑦ 今月のクイズ
- ⑧ 編集後記
- ⑨ 写真館

※児童生徒作品がある時は随時掲載あり

Instagramでも学校の様子を知ることができるが、スタッフからそれぞれの思いや子どもたちの様子、自身のニュースなど言葉(文章)で伝えたい、ということもあり毎回A4サイズで5枚～10枚程度のボリュームで発行している。「スタッフより」のところでおすすめ音楽や映画紹介をしたり幼少期の写真を紹介したり、どんなスタッフがいるのか通信を通して人となりを知っていただくいい機会となっている。

現在はこの様式で発行しているが、これで完成形ではなく、ご家庭にとってどのような内容の「通信」が必要があり、効果的か随時改善しながら今後も継続していく。

② 学習状況の把握や学習評価の在り方に関する実証研究

A：個別指導計画モデルの作成

学習成果や教育の成果を明らかにして支援に取り組むためにもICTを積極的に活用して個に応じた学習活動の日常化やサポートの在り方の可視化や、どのような個別指導計画モデルが有効か検討していく。特に個別指導計画は星槎中学校・星槎高等学校にてシステム化され実用化されているものがあるが、SEISAアカデミーに在籍するタイプの児童生徒用には対応していないので改修して実用化することを目指す。

研究結果

個別指導計画【IEP】をステラプランというシステムを導入して後期より活用してきた。児童生徒が質問に答えた内容から得意、不得意を割り出し不得意な部分にどうアプローチをかけ、克服していくかスタッフが目標を立てる。その目標をどの程度達成できたか毎週金曜日の振り返りの時間にスタッフと児童生徒それぞれで評価し、ご家庭と共有する。本当は毎日評価をしたほうが効果があるのだが、アカデミー時間割の組み方から毎日ひとりひとり振り返りの時間をとるのは難しく、自己評価する点もアカデミー生にとって不安があったので初年度は見送り、2年目の後期から導入した。まず振り返りと自己評価は毎週金曜日の週1回からスタートした。実際取り組んでみて、振り返りの時間を持つことは自分の課題と向き合う時間となり行動改善につながるのでこの時間を確保することの必要性を感じた。自己評価をすることに関しては元々自己肯定感が低いため、できたとしても高得点をつけたり、花丸を選択したりすることはなかなかない。この振り返りの時間を通して自分自身を認めてあげる力が着くともっと意義あるものになると感じ

た。ステラプランを実践できたことは課題克服のツールのひとつになったので来年度も継続して取り組んでいく。

③2E 児童生徒の対応に関する実証研究

A：SEL（ソーシャル&エモーショナルラーニング）教材に関する実証研究

令和6年度は、SELを提供する側である教職員やアカデミー関係者、保護者及びご家族とでSELへの気づきと必要性を同一線上で共通理解を行い、協働をはかれるよう、取り組める環境構築を行う。SEISAアカデミー環境下の実践を家庭と共有することで、家庭での実践へ繋げる。児童生徒の個やクラス場面での経験が家庭での実践とで繋がり、そして見えることが出来ると、次は段階的に拡がりを持たせて多様な場面で汎用が可能となる。その上でSELを育む風土や文化を日常化とする環境形成を行う。そのためには包括的SELアプローチをローカライズすることが肝要であり、SEISAアカデミーに携わるコミュニティにSEL文化を計画的に拡げることへ繋がると考えている。以上のことに取り組めると、児童生徒の自尊感情や他者認識は、スムーズに、自然に伸ばすことが可能となり日常化される。そして、学業への取り組みが改善、自律習慣の確立と更なる探究心と学びへの意欲が向上することが見込まれる。この想定に関して実証研究を進める。

1 はじめに

本章では、令和6年度におけるSEL（社会性と情動の学習）を提供する側である教職員やアカデミー関係者、保護者及びご家族とでSELへの気づきと必要性を同一線上で共通理解を行い、協働をはかることを目的とし、STELLAR PLAN（オンラインIEP）を活用した取り組みを実施し、成果としてまとめた。

SELは、児童生徒が自らの感情を理解し、自己管理を行い、他者と良好な関係を築く力を養うための重要な学習領域である。しかし、従来の学校教育においては、学力向上が主な焦点となり、SELのような情動面の発達支援が十分に行われてこなかった。そのため、学校だけでなく家庭や地域も一体となった取り組みが求められる。これを実現するために、STELLAR PLANを導入し、活かされ、教育現場と家庭の双方でSELを効果的に実践できる環境の整備に努めた。

2 SEL環境構築の必要性和取り組み

2.1 SEL環境構築の課題

SELを効果的に実践するためには、学校と家庭が一体となり、児童生徒の社会性や情動面の成長を支援する環境を整える必要がある。しかし、以下の課題が存在した。

- SELの重要性についての認識に個人差がある。
- 学校と家庭の連携が十分に取れていないためSELの実践が学校内に留まりがちである。
- 児童生徒のSELの進捗を可視化する手段が不足している。
- 現在、日本で拡がりを見せているSELプログラムはCASEL（Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning）がベースであり、SENG（Supporting Emotional Needs of the Gifted）が行うSELとはいくつかの重要な違いがあることも分かった。

SENGのSEL：

SENGは、感情的ニーズに特に焦点を当てたSELアプローチを採用している。SENGのSELは以下の特徴を持っている：

- ① 才能児に特化：高い知的能力を持つ子どもたちの特殊な感情的・社会的ニーズに対応している。
- ② 個別化されたアプローチ：才能児の個々の特性や課題に合わせたサポートを提供している。
- ③ 過剰興奮性への対応：才能児によく見られる感情や感覚の強さに焦点を当てている。

CASELのSEL：

CASELは、より広範な学生層を対象としたSELアプローチを提唱している。CASELのSELの特徴は以下の通りである：

- ① 5つの主要能力：自己認識、自己管理、社会認識、対人関係、責任ある意思決定に焦点を当てている。
- ② 包括的アプローチ：教室、学校全体、家庭、地域社会を含む多面的な実践を推奨している。
- ③ 一般的な学生対象：特定の才能や能力に関わらず、すべての学生の社会的・感情的スキルの向上を目指している。

主な違いについて：

- ① 対象：SENGは才能児に特化、CASELはより広範な学生層を対象としている。
- ② 範囲：SENGはより個別化されたアプローチ、CASELはより包括的なアプローチを採用している。
- ③ 焦点：SENGは才能児特有の感情的ニーズに焦点を当て、CASELは一般的な社会的、感情的スキルの開発に重点を置いている。

両者のアプローチは、社会的・感情的学習の重要性を認識している点で共通しているが、その実践方法と対象者に違いがある。

- CASELとSENGのSEL共に、日本特有の人・風土・文化と掛け合わせたニーズベースが異なるため、日本で広げる必要のある特異な才能や2Eの児童生徒向けのSELプログラムの開発と普及が必要であることも明らかになった。
- 日本では、支援教育の根底に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の文化が特に定着化しており、星槎でもSSTが長年実施されていることから、SST指導を汎用したSELプログラムの導入が求められると感じた。

また、SENGとCASELがそれぞれ進めるSELの違いを踏まえた上で、それぞれの有効性についても確認された。CASELのSELは、学校教育の枠組みの中で社会的・情動的なスキルを体系的に育成することを目的としており、幅広い学習環境での汎用性がある。

一方で、SENGのSELは特異な才能のある児童生徒の特性に着目し、彼らの内面的な情緒的成長や自己理解を深めることを重視するアプローチである。SEISAアカデミーにおける実践の中で、CASELの体系的な枠組みを参考にしつつ、SENGの個別化された支援が特に特異な才能のある児童生徒や2e児童生徒に対して有効であることが確認された。

2.2 取り組み内容

これらの課題を解決するために、STELLAR PLANを活用した包括的SELアプローチをローカライズ

イズし、SEISAアカデミーの環境下で実践することで、家庭での実践へとつなげる仕組みを構築した。具体的には、以下の施策を実施した。

- SELポータルの開発：児童生徒の社会性や情動の成長を記録し、学校と家庭が共有できるオンラインプラットフォームを導入。これにより、保護者もリアルタイムで学校でのSELの取り組みを把握し、家庭での対応がしやすくなった。
- 教職員・保護者向けSEL研修：SELの基本概念や指導法についての研修を定期的の実施し、関係者の理解を深めた。これにより、SELの重要性に対する認識の差が縮まり、より統一的な指導が可能となった。
- 家庭との協働強化：家庭におけるSEL実践のためのガイドラインを作成し、学校と家庭が一体となった取り組みを推進。家庭内でどのようにSELを実践すれば良いかの具体例を示し、保護者が実践しやすい環境を整えた。
- クラス場面と家庭のつながりの可視化：学校でのSELの取り組みが家庭でどのように実践され、効果を発揮しているかを可視化し、フィードバックを共有する仕組みを導入。
- SSTを活用したSELプログラムの開発：日本の教育文化に適応したSELの展開として、SSTの要素を取り入れたプログラムを検討。

3 取り組みの成果

3.1 児童生徒の変化

- 自己認識力の向上：自身の感情を適切に理解し、表現できる児童生徒が増加。感情日記や振り返り活動を通じて、自分の気持ちを言語化する力が高まった。
- 他者認識と共感力の向上：対話や協働の場面で、相手の気持ちを考えた行動が増えた。特にグループ活動において、相手の発言に共感を示し、適切な応答をする場面が増えた。
- 自律性の向上：学習意欲の向上に加え、家庭学習の習慣が定着。感情をコントロールするスキルが身についたことで、学業への集中力も向上。
- あいさつする、御礼を伝える、謝る、人の話を聞く（聴く）、言葉で伝える、レジリエンスを高める、メリハリをつけた行動をとるという具体的な目標に辿り着き、実践できるようになった。
- 『星槎の約束』（人を認める・人を排除しない・仲間を作る）の具体的な行動指針が明確になり、児童生徒が日常の中でチャレンジしやすくなった。

3.2 保護者の変化：

- SELに対する理解が深まり、家庭内での実践が増加。保護者向け研修やガイドラインを活用し、子どもとの関わり方が変化した。
- 児童生徒の情動面の成長を可視化することで、より適切な支援が可能に。ポータルを通じて子どものSELの成長を把握し、家庭での対応がスムーズになった。

3.3 教職員の変化：

- SELの指導がより体系的に行われ、児童生徒の行動変容を促す指導が可能に。研修によって教職員の指導スキルが向上し、具体的な指導方法が確立された。
- データを活用した個別指導の精度が向上。学校と家庭で情報共有が進み、一人ひとりの

児童生徒に適した指導が可能となった。

4 今後の展望：

SELを育む風土や文化を日常化するために、今後は以下の取り組みを強化する。

- 家庭と学校の連携強化：家庭内でのSEL実践事例を収集・共有し、保護者同士のネットワークを構築。家庭での成功事例を学び合う機会を設ける。保護者向けのワークショップや情報交換の場を設け、家庭内でのSEL実践を促進。
- SELカリキュラムの発展：星槎アカデミーに於けるSELの取り組みをさらに体系化し、学年ごとの目標を明確化。学年別のSEL目標を策定し、学習指導要領と連携させる。
- 実証研究の推進：SELの実践が児童生徒の学力向上や情動発達に与える影響を科学的に分析し、エビデンスに基づく指導法を確立。SELの成果を数値化し、教育効果を検証。
- 特異な才能・2e児童生徒向けSELプログラムの開発：CASELやSENGのSELプログラムの違いを考慮し、日本人日本文化に応じた特異な才能・2E児童生徒に適したSELプログラムを開発し、普及を進める。SENGのアプローチを活用し、特性に応じたSEL支援を確立。
- SSTを活用したSEL指導の確立：日本の教育現場で受け入れやすい形でSELを広めるために、SSTを活用したプログラムをさらに発展させる。日本の教育文化に適したSELプログラムを設計し、全国的な展開を目指す。

このように、STELLAR PLANを活用した包括的SELアプローチを発展させることで、特異な才能のある・2E児童生徒の自尊感情や他者認識の向上を図り、学習意欲の向上や自律的な行動の促進につなげていく。

令和6年度の取組計画に基づいた実践内容

学校行事のようになるが、すべての実証研究は学校生活、授業、行事の中で実践してきたため下記のように記載させていただく。赤字の部分が計画と異なるところである。

<令和6年度>

4月	出発式 児童生徒オリエンテーション期間 保護者面談期間 登校スケジュール決定 AIドリル選定 健康診断 新入生歓迎会(星槎高校)
5月	2期生歓迎遠足 平常授業開始 AIドリル使用開始 個別探究開始 IEP検討 第1回保護者会
6月	六月祭(星槎中・星槎高校) アカデミー説明会① レポート1次確認(星槎高校)
7月	キャンプ実習(星槎中学校合同) 第2回保護者会 体験入学4日間① 生徒面談(星槎高校) 運営指導委員会①夏休み特別授業 課題研究
9月	前期プレゼン発表会 生徒企画「おいしいご飯を食べるの会」 前期学力検査 SAAB準備(グループ探究) アカデミー説明会② レポート2次確認(星槎高校)
10月	衣食住に関するクイズ・アカデミー王決定戦 体育祭準備期間・体育祭(星槎中-高合同) 体験入学4日間② 第3回保護者会 IEP活用開始
11月	SAAB(国際交流イベント) ハロウィン仮装大会 アカデミー説明会③
12月	体験入学4日間③ 第4回保護者会 校外学習②みかん狩り(星槎中学校合同) 校外学習③ 冬休み課題 生徒面談・保護者面談(星槎高校) 運営指導委員会②
1月	アカデミー説明会④ 体験入学4日間④ スキー実習(中1・中3/星槎中学校合同・

	星槎高校) 後期学力検査
2 月	後期プレゼン発表会 第 5 回保護者会 アカデミーR6 年度入学試験 運営指導委員会③
3 月	アカデミー1 期生&2 期生交流会 修了式 ※毎月学校通信発行

3. 実証研究の成果や課題

<成果>

実証研究の結果より、まずはSEISAアカデミーに通う2Eの児童生徒たちが誰一人取り残されることなく自分の学びのペースを掴み、学びたいと思える内容と環境で学習できたことはひとつ成果だと言える。1年目から2年目で増員できたこと、増員に伴い学習内容、学習環境に変化をつけ、より学校らしく仕組化できたことはSEISAアカデミーを継続する自信につながった。何よりもSEISAアカデミーに通い始めて児童生徒それぞれが自分なりの成長を見せてくれていることがスタッフのエネルギーの源になっている。2Eの繊細さや過敏さを考えるとマンツーマンの環境がいいようにも思えるが、やはりどんな発達凹凸があっても、どんな特性があっても子どもたちは子どもたちの中で揉まれながら成長していくということが証明できた。SEISAアカデミーとしての役割の重要性、必要性を身をもって感じている。今は学校外設置の、フリースクールとしての形ではあるがいずれは小中校一貫型の学校として存在できるように努力していきたい。

<課題>

次は3年目を迎える。ひとつ、目標に掲げているのは「居場所」から「学び舎」にしていくということ。2年間で学習内容の充実と学習環境の整備を行い、「やっとここまで来た」という思いはあるが3年目はさらにここから「子どもたちの特異な才能」に注目し、いかに潰さず育むことができるか、に焦点をあてたい。ここから本当にSEISAアカデミーとして「特定の分野において特異な才能を持つ児童生徒の支援」の深掘りが始まると思っている。SEISAアカデミーを子どもたちの才能を引き出し、伸ばせる学び舎に成長させるためにも、以下の事を課題とし、引き続き取り組んでいく。

- 必要な人にベストなタイミングで情報が届くような積極的な認知活動
- 進学先など出口の実績づくり
- 高校生プログラムの構築

4. 参考資料

〈資料①〉学力検査の問題より

〈日本語〉

問8/11 以下のNHKのニュース報道記事(2024年12月13日)を読んで問いに答えなさい。

埼玉県的女子高校生4人が「闇バイト」に応募して特殊詐欺に関わり警察に検挙されていたことがわかりました。「現金を受け取って運ぶ仕事」などと勧誘され闇バイトに応募していたということです。埼玉県に住む15歳から17歳の女子高校生4人は、ことし7月から9月、埼玉や東京であった複数の特殊詐欺事件に関わったとして警察に逮捕され、家庭裁判所に送られました。警察によりますと、このうち16歳の高校生がことし7月、SNSを通じて闇バイトに応募し友人3人も誘って特殊詐欺の「受け子」や「出し子」などを繰り返していたということです。この高校生はSNSで時給の高いアルバイトを探していたところ「現金を受け取って運ぶ仕事」などと勧誘され闇バイトに応募していました。調べに対し「遊ぶお金が欲しかった。犯罪かどうかは自分なりに調べて大丈夫かと思った」などと供述しているということです。1件あたり数万円の報酬を受け取っていたとみられ警察は指示役の特定など実態解明を進めています。(NHKのニュース報道記事(2024年12月13日))

どのような事件に関する報道なのかを5W1Hを明らかにしてまとめて回答欄に記載ください。5W1Hとは、「When (いつ)」、「Where (どこで)」、「Who (誰が)」、「What (何を)」、「Why (なぜ)」、「How (どのように)」という、5つの「W」と1つの「H」のことです。

回答を入力

〈英語〉

問題4 クリエイティブ問題

(1)(2)1問10点(20点) (3)各5点(15点)

(1)もしあなたが新しい英単語を発明できるとしたらどんな英単語にしますか?自由な発想で答えてください。ただし、どういう意味か説明書きをきちんとつけてください。(説明書きは日本語可)全く新たな単語でもいいですし、例のように2つ組み合わせで新たな1つの単語をつくる、でも構いません。

(例)

Chillax = Chill + Relax: To calm down and relax at the same time.

長文回答

(2)未来に誕生するであろう職業に英語で名前を付けてください。また、その職業がどういった内容であるか説明してください。(説明は日本語可)

短文回答

(3) Imagine you are the leader of a new country.

～突然ですがあなたは一国の主となりました。国王になった気分以下に以下の間に英語で答えなさい～(文章が書けなければ単語のみでも構いません)

説明(省略可)

① What would you name your country? (国名は何とするか?)

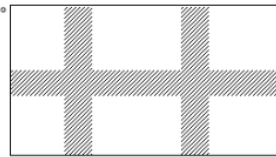
〈数学：アドバンス〉

(15) 連続する3つの偶数がある。中央の数の3乗から小さい数と大きい数の積の7倍を引くと中央の数を60倍したものより28大きくなった。3つの数を求めましょう。但し、この3つの数に0は含まれないものとする。

回答を入力

Q3 次の文章を読み、問いに答えましょう。

縦の長さが10m、横の長さが18mの土地がある。
その土地に同じ長さの道が縦に2本、横に1本
通っている。道の部分を除いた土地の面積が
112m²となるとき、道の幅を求めましょう。



(16) 上の道幅を求めましょう。

回答を入力

〈数学：ベーシック〉

Q3 次の文章を読んで、問いに答えましょう。

音が空気中を伝わる速さは、気温によって変化します。

気温が $t^{\circ}\text{C}$ のときの音の速さは

$(331.5 + 0.6t)\text{m/s}$ という式で表すことができます。

(7) 次の①～③のうち、音が伝わるのが早い順に答えましょう。

①冬の苗場スキー場 ②夏の沖縄の海中 ③今日の星槎中のグラウンド

回答を入力

(8) ある花火大会で家から花火を見ていたら、花火が見えてからちょうど2秒後に音が聞こえました。気温が30 $^{\circ}\text{C}$ のとき、音の速さを求めましょう。

回答を入力

11/27 (水) 校外学習

・ カリアヌートルミュージアム (みなと)

・ (成瀬) → アーカイブ工場?

・ ランチ博物館 (新横), 11:00 ~

→ 国本太田美術館 (川崎)
フクナマ

・ JAXA (相模)

・ アニメーションミュージアム

・ 地質標本館 (海外)

銚子 (学院)
大仏

ISUZU プラザ
(つくし、バス) (読込)
Nissan / G. W. / Honda / K. Sato / Kuro

NISSAN (厚木)

印刷機
水道橋

丸の内
有明

北海道
五ノ川植物園
グリーンパーク社

横浜
L.G.
杉田
YAMATA
日産本社

アカデミー

約束

①人に迷惑をかけない
△午後のお茶を午前11時の前
で済む。

②あいさつ、ありがとう、ごめんさい

③批判よりも応援
④人のものに勝ちに
さられない。

⑤有言実行

⑥人の意見は最後を聞く
(前) ↓ (聴)
e (以上です) 話し合う姿勢の問題

⑦パソコン使わないなら閉じる

⑧かばんをする→かばんを覚える
(少しづつできるように)

競(けん)見(けん)個性(こせい)

- ① 話している人の方を見る
- ② 言葉で伝えよう
- ③ 人ではない人はラボ③
- ④ 暴力、暴言に気を配る
- ⑤ 食事時のパソコンX
めりはい
- ⑥ 授業中うろろ
しない
(動き回ること)
注目を集めよう
しない)

〈資料④：精査する作業〉

必要でないものには網掛けをし、消去していった。

アカデミーの約束について	
2回目 10月18日(金)	
※目的： 様々な学年の在籍や、特性がありつつも、これからのアカデミーにとって より一層、皆が学びやすさを追求するためのルール作り スタッフからの一方的なルールではなく、一人ひとりにルールを 考えてほしい、また、まとめられたものは完全なものでなくてよい 時期と実践状況をみてみなおしをする	
前回のみんなの意見より	
☆ (あいさつ) ありがとう、ごめんなさい	
☆ 人に迷惑をかけない→約束を守る→人に迷惑をかけない→常識範囲の迷惑	
☆ 人の物をかってにさわらない	※→ステラプラン
☆ 否定(批判)よりも応援	
☆ 有言実行	※→ステラプラン
☆ 人の話を聴く(聞く)	
☆ 自分の意見を言い終わったら「以上です」	
☆ パソコンを使わないなら閉じる	※パソコンに関しての約束事として別に
☆ 我慢を覚える	
☆ 各自のルールを三つ作る	※→ステラプラン
☆ 言葉で伝える	
☆ 話している人の方を見る	
☆ 一人でいたい人はラポ③	
☆ 暴力・暴言に気を付ける	※言葉で伝えるに含む
☆ 食事時のパソコンはなし	※→ステラプラン
☆ メリハリをつけた行動	
☆ 授業中うろうろしない	※メリハリをつけた行動に含む
☆ 動き回りで、注目を集めない	※メリハリをつけた行動に含む
※絞り込みはある程度→さらに言葉の選択	
※個々への対応、説明は必須	
※2回目の全体の参加者の雰囲気は向上	
※発言する側、受け取る側の慣れも見込めた	
※意味が分からない、納得できないがあってもよい	

〈資料⑤：アカデミー5つのチャレンジ完成〉

〈アカデミー5つのチャレンジ〉

〈パソコンの使用について〉

☆☆☆星槎の約束☆☆☆

人を認める
人を排除しない
仲間を作る

パソコンを使うとき

○音量に気を付ける
○使わないときは閉じておく
○人のパソコンを勝手に開けない、覗かない
○昼食中はパソコンは使用しない

☆☆アカデミーのチャレンジ☆☆

- ☆ あいさつ・ありがとう・ごめんなさい！
- ☆ 人の話を聴こう(聞く)！
- ☆ 言葉で伝えよう！
- ☆ レジリエンスを高める！
- ☆ メリハリをつけた行動！

〈資料⑥：2023 スタート時の時間割〉

	月	火	水	木	金
9:00～9:15	集いの時間				
9:15～9:30	対話の時間				
1 限 9:30～10:20	国語表現	ART	基礎学習	基礎学習	英語②
2 限 10:30～11:20	基礎学習		レクリエーション	基礎学習	SEL
3 限 11:30～12:20	英語①	星槎の時間		コンピュータ基礎	数学探求
12:20～13:00	昼休み（シエスタ）				
4 限 13:00～13:50	プロジェクト （探求）	STEAM'S	自主学習	アドベンチャー	プロジェクト （探求）
5 限 14:00～14:50					
14:50～15:05	掃除				
15:05～15:15	ミーティング				

〈資料⑦：2024 年度時間割〉

前期

教室	月 Labo①	月 Labo②	火 Labo①	火 Labo②	水 Labo①	水 Labo②	木 Labo①	木 Labo②	金 Labo①	金 Labo②
9:15	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR
	〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉	
9:30 10:20	日本語理解と表現		基礎学習	畑&カフェ プロジェクト/ ハンズク ラブ	基礎学習	基礎学習	基礎学習	畑&カフェ プロジェクト/ ハンズク ラブ	English Conversation (basic)	学び合い タイム
10:30 11:20	数 学 探 究 (BA)	基礎学習	学びあい タイム		【1Day Teacher】 STEAMS 科学/調理/音楽/経済 場合によっては ★全校集会★		(SEL 個別面談) レクリエーション		学び合い タイム	English Conversation (advance)
11:30 12:20	基礎学習	数 学 探 究 (AD)	ART						1週間の学習振り返り &学びの地図作成	
12:20 13:00	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム			ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム
	〈午後の活動〉		〈午後の活動〉				〈午後の活動〉		〈午後の活動〉	
13:00 13:50	【ゼミ】 宇宙	【ゼミ】 イラスト	【ゼミ】 哲学	【ゼミ】 理科			【ゼミ】 心理学	パソコン 活動	lab③ マイプロ ジェクト	【ゼミ】 アウトプット
	lab③ マイプロジ ェクト		lab③ マイプロジ ェクト				lab③ マイプロジ ェクト	英会話 【個人】 リチャード (スタッフル ーム)		
14:00 14:50	【ゼミ】 笑える数学	lab③ マイプロジ ェクト	【ゼミ】 哲学	【ゼミ】 パソコンデ ザイン			【ゼミ】 心理学	パソコン 活動	lab③ マイプロ ジェクト	【ゼミ】 アウトプット
			lab③ マイプロジ ェクト				lab③ マイプロジ ェクト	英会話 【個人】	図書館へ 行こう	

後期

教室	月 Labo①	月 Labo②	火 Labo①	火 Labo②	水 Labo①	水 Labo②	木 Labo①	木 Labo②	金 Labo①	金 Labo②	
9:15	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	
	〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		〈午前の活動〉		
9:30 10:20	日本語理解と表現		基礎学習	畑	基礎学習	基礎学習	基礎学習	畑	カフェ	English Conversation (basic)	基礎学習
10:30 11:20	数学探究 (BA)	基礎学習	歴史	基礎 学習			●【1Day Teacher】 STEAMS 科学/調理/音楽/経済など	(SEL 石田さん個別面談)	レクリエーション	English Conversation (advance)	基礎学習
11:30 12:20	数学探究 (AD)	基礎学習	アカデミー ジャポン	Music			●【図書館へ行く】 希望制による			1週間の振り返り	
12:20 13:00	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム			ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム	ランチ タイム	
	〈午後の活動〉		〈午後の活動〉				〈午後の活動〉		〈午後の活動〉		
13:00 13:50	【ゼミ】 宇宙	マイプロジ ェクト	【ゼミ】 宗教学	【ゼミ】 理科実験			【ゼミ】 日本文学	パソコン 活動	【ゼミ】 アウトプット	マイプロジェ クト	
14:00 14:50	【ゼミ】 笑える数学	マイプロジ ェクト	【ゼミ】 宗教学	【ゼミ】 ゆつく り 算数 数学	マイ プロジ ェクト		【ゼミ】 日本文学	パソコン 活動	【ゼミ】 アウトプット	マイプロジェ クト	
			【オンラインゼミ】 ★なかしーDTM★ 13:00-13:50 月2回 隔週火曜日		【オンラインゼミ】 ★なかしーDTM★ 13:00-13:50 月2回 隔週水曜日		【オンラインゼミ】 ★だーしまイラスト★ 13:00-14:50 毎週木曜日				